

## 飯田日中友好協会第55回定期大会の報告（5／20）

飯田日中友好協会は5月20日（土）第55回2017年度定期大会を「喬木村福祉センター」で会員50名が出席して開催した。本年は、日中国交正常化45周年に当たり、全国唯一の「満蒙開拓平和記念館」を持つ地区日中として、満蒙開拓平和記念館の運営への協力、県日中友好協会、地元水曲柳会の訪中事業への参加協力、方正県と泰阜村の有効締結20周年事業への協力。飯田市とハルビン市とが人形劇を通じて交流を深める活動。さらに、県内で最も多くの中国帰国者が住む「飯田下伊那」地域の協会として、帰国者への理解を深め、きめ細かな支援活動の推進を行政と共に進める。などの新年度の活動方針を決定した。



清水会長は、「昨年中国東北地方の訪中事業や天皇皇后両陛下の満蒙開拓平和記念館への訪問などを振り返り、日中友好運動への励みになった。平和の大切さ後世に伝えていく役割を果たしていく。引き続き、満蒙開拓平和記念館の運営に協力すると共に、国交正常化45周年を記念しての訪中事業の参加協力。方正県と泰阜村との友好締結20周年記念事業への協力。さらに飯田市と中国ハルビン市との友好都市交流を目指し

2018年度の世界人形劇フェスティバルへの人形劇団招聘準備。中国帰国者への理解を深める活動。高齢化する中国帰国者への支援事業など。積極的に推進しよう。」と述べられた。

来賓を代表して、飯田市長（代理男女共同参画課長土屋美那）からは、「昨年秋天皇皇后両陛下が満蒙開拓平和記念館をご訪問され、満蒙開拓の歴史と日中友好の活動が伝え継がれていくことを望んでいることに触れられた。世界的に不安定な社会情勢の中、日中両国の平和繁栄、相互の信頼を深めるために飯田日中友好協会の役割はとても重要であり、今後も日中両国の架け橋となり、さらなる友好関係を築かれんことを期待する。」と述べられた。また、飯田保健福祉事務所長（代理副所長田村浩司）からは、満蒙開拓平和記念館への天皇陛下のご訪問に触れ、「満蒙開拓の歴史をから、平和の尊さを後世に伝えるため、記念館の一層の充実、発展を期待する」と述べられ、続いて「現在飯田下伊那地域には、約1,100名の帰国者が在住している。県としても日本語教室の開催、生活や就労相談、医療機関への通訳派遣、支援相談員による帰国者や家族への生活支援を行っている。今後も市町村や日中友好協会との協力のもと支援事業に取り組んで参ります。飯田日中友好協会が行っている満蒙開拓の歴史の伝承や中国帰国者の交流支援活動は21世紀の新たな日中関係を築くものであり、日中友好の更なる架け橋なることを期待している」と述べられた。

お二人から、あたたかい激励のごあいさつを頂いた。

議長に、牛山満智子を選出して議事に入り、本会、女性委員会、青年委員会の順に2016年度の活動報告、決算報告、会計監査報告を承認した後、2017年度の活動方針、予算をそれぞれを採択した。

本年度の活動方針では、日中国交正常化45周年記念事業を柱に、訪中団の派遣協力。方正県と



泰阜村との友好締結20周年記念事業への協力。飯田市と中国ハルビン市との友好都市交流を目指し2018年度の世界人形劇フェスティバルへの人形劇団招聘準備。をはじめ、引き続き、満蒙開拓平和記念館の運営への協力。中国帰国者支援活動の推進。第27次中国留学生のホームステイの受け入れ。中国語教室の実施。これらの活動を通じて地域に根ざした活動を地道に、前向きに積み重ねていくこととした。

第二部では、昨年実施した「中国東北部の友好訪問の旅」の報告会をおこなった。

この訪中事業は、日中間の厳しい政治環境の続く中で中断されていたのもで、6年ぶりに実施されたものである。今回の友好訪問は、協会会員11名並びに満蒙開拓平和記念館関係が9名、一般市民5名の計25名が参加した。

日程は、2016年8月31日（水）から9月5日（月）で、A班が31日から9月3日の3泊4日（9名）、B班が31日から8月5日の5泊6日（16名）であった。



報告会は、プロジェクターを使いスクリーンを観ながらA班からは林茂伸さんが、B班からは松尾達二さんが行った。また参加した思い・感想を、塩野入みどりさんからお話して頂き、それぞれ3名の方の報告のほか、参加した方を含め会場からの質問や感想などが出されるなど、友好訪問、友好交流の成果や新入会員の増加も確認された。

第三部では、新たに会員になられた方々の紹介と抱負が語られ、また会場では、中国帰国者二世6名による中国舞踊の披露があり、和やかな交流が行われた。最後に齋藤 憲常任理事の三三七拍子の音頭で躍進を誓って大会を締めくくった。

以上